令和5年度　山口県立小野田工業高等学校全日制　学校評価書　　校長(安武　宏典)

1　学校教育目標

教育目標・・・・　1　広い教養と専門的な知識技術を身に付け、望ましい勤労観・職業観を養う。
2　感謝の気持ちをもち、地域や社会に貢献する心と態度を養う。
3　自ら思考し、判断し、主体的に責任ある行動のとれる能力、態度を養う。
4　強い使命感と倫理観をもち、創造性豊かで挑戦し続ける産業人の育成を図る。

育てたい力と心・・・・・社会人として自発的・自律的に行動できる。
1　基礎学力を含めた広い教養と専門的な知識技術
2　高い規範意識と正しい判断力
3　感謝の気持ちとボランティア精神
4　現状に満足せず主体的に学び続ける姿勢

＜スクールミッション＞
【全日制】工業技術の進展への的確な対応をめざした実践的・体験的な教育活動や、地元企業等と連携・協働したものづくり、資格取得等に関する教育活動などを通して、高度な専門性や主体的に判断して行動できる力をもち、地域・社会を支え、産業の持続的な発展を担う人材を育成する。

2　現状分析（前年度の評価と課題を踏まえて）

〇基礎学力テストについては、実施前後での指導内容・方法を検討し、就職試験に対応した効果的な基礎学力の定着を目指す。
〇授業アンケートについては、生徒のニーズを把握し、より学習意欲が向上する授業となるよう授業の工夫・改善に取り組む。
〇Webページについては、コンテンツの掲載方法を検討し、より新鮮な情報を早く提供できるように改善を進める。
〇通学路の危険箇所の確認や交通ルールを守る規範意識の向上を図るとともに、自転車乗車中のルール順守とマナーの指導等を通して、交通事故対策に努める。
〇生徒の規範意識をさらに高めるよう、全教員が共通理解のもと、引き続き粘り強く取り組む。
〇いじめ防止については「山口県立小野田工業高等学校いじめ防止基本方針」に基づいて、引き続き全教員が未然防止、早期発見、早期対応に取り組む。
〇生徒の健康意識は高まりつつあるが、さらに高い目標を設定し、自己管理力を向上させる。特に歯の健康の重要性を理解させ、治療率の向上を目指す。
〇PTAや地域との連携を推進し、生徒の進路意識・学習意識の向上により、一次募集での合格につながるよう、きめ細かに個別指導を徹底する。指導内容を充実させ、今年度も進路決定率100%を目指す。
〇資格試験については、学科間の連携を取り、ジュニアマイスターポイント1600点以上を目指す。指導については、担当者と担任が連携を取りながらが、補習等を行い合格率の向上を目指す。
〇体験入学については、本校への志願者を増やすために、体験入学の充実や出前授業、外部と連携した学校のPR活動に積極的に取り組む。
〇引き続き、委員会や職員会議、校務分掌活動の円滑な運営や業務時間の適正化に取り組む。

3　本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題及びチャレンジ目標

1 ICT機器の効果的利用等による、わかりやすい授業の実践と公務の効率化
2 規律ある安心・安全な学校づくりとそれを支える組織的な危機管理　3 キャリア教育の充実と丁寧な進路指導
4 学校行事や様々な媒体を利用した本校の魅力の積極的発信　5　探究活動の充実（地域と連携した教育活動・CSの仕組みの活用）

(1)【学習指導】
・基礎学力や技術の定着
・互見授業、研究授業、授業評価を活用した授業研究とICT機器の積極的活用による授業改善
・主体的、対話的で深い学びの視点に立った授業実践
(2)【生徒指導等】
・基本的生活習慣の確立と規範意識の向上
・命の大切さや人権を尊重する心や態度の育成
・交通法規の遵守とマナーの向上
・部活動や特別活動の活性化
(3)【進路指導】
・資格取得の促進
・早い時期からの進路意識の醸成
・就職サポーター等と連携した積極的な情報収集
・生徒・保護者への確実な情報提供
・最後まで粘り強いサポートの実践
(4)【校務分掌・その他】
・教員減に対応した勤務体制の見直し
・迅速な情報共有と緊密な連携による組織的対応の習慣化
・コミュニティスクール等地域、企業、異校種などとの双方向の連携強化
・本校の特徴的な活動やものづくりの魅力の積極的情報発信

本年度のチャレンジ目標

①進路実現100%

②ジュニアマイスター全校生徒の獲得得点

1600点以上

4　自己評価　／　5　学校運営協議会委員評価

	重点目標	具体的方策（教育活動）	評　価　基　準	達成度	実践目標の達成状況の診断・分析	学校運営協議会委員からの意見・要望等	評価
教務	基礎学力の定着向上及び学習意欲の育成と学校・家庭・地域との連携強化	・「基礎学力テスト（漢字・数学）」の計画的な実施と内容の充実及び基礎学力の定着を図る。	4：計画どおり3回実施し、全体を通した成績優秀者（平均80点以上）の割合が50%以上であった。（欠席者は除く） 3：計画どおり3回実施し、全体を通した成績優秀者（平均80点以上）の割合が40%以上50%未満であった。（欠席者は除く） 2：計画どおり3回実施し、全体を通した成績優秀者（平均80点以上）の割合が30%以上40%未満であった。（欠席者は除く） 1：計画どおり3回実施し、全体を通した成績優秀者（平均80点以上）の割合が30%未満であった。（欠席者は除く）	3	予定通り、年間3回実施した。成績優秀者（平均80点以上）は、1年生が37人（全体90人）41．1%、2年生が50人（全体88人）56．8%、3年生が42人（全体84人）50．0%。全校では129人（全体262人）49．2%であった。 学年が上がるにつれ、成績優秀者の割合も高くなっており、基礎学力が着実に定着していることがわかる。 一方で、平均50点以下の生徒は、全校で漢字4人、数学31人であった。今後も指導を続けていく必要がある。	・授業評価アンケートから適切な評価がなされている。 ・読書活動の推進をさらにすすめる。	A
		・授業評価アンケートの内容を精選し、年1回の実施とその結果から生徒の実態を把握し、生徒に即した授業を行うとともに、授業改善に繋げる。	4：年1回の実施と、その結果から生徒の実態に即した授業を行えているが95%以上である。 3：年1回の実施と、その結果から生徒の実態に即した授業を行えているが85%以上である。 2：年1回の実施と、その結果から生徒の実態に即した授業を行えているが75%以上である。 1：年1回の実施と、その結果から生徒の実態に即した授業を行えているが75%未満である。	3	普通科目文系、普通科目理系、普通科目実技、各工業科の座学、各工業科の実習の合計9グループでアンケート結果を集計した。 まず、9グループとも85%以上が授業内容に興味・関心をもつことができたと解答している。工業の実習に関する3グループはいずれも95%以上が興味・関心をもって授業に臨んでいた。 次に、9グループとも85%以上が、教員がポイントを押さえた授業展開していると回答している。 アンケートから生徒は授業の中で話し合う機会や意見を発表する場を求める傾向にあることが読み取れた。		
		・授業等で学校図書館の積極的な活用を図り、読書活動の推進につなげる。	4：年間平均で、週4コマ以上の利用があった。 3：年間平均で、週3コマ以上の利用があった。 2：年間平均で、週2コマ以上の利用があった。 1：年間平均で、週1コマ程度の利用にとどまった。	2	部活動や進路の勉強会で放課後の図書館の活用が増加しているが、授業での利用は昨年と同等であった。課題研究や日本語検定などの図書の要望が増えた。 図書館に足を運ぶきっかけとなる本の購入をすすめているが、読書数の増加につなげることに課題がある。 図書委員の活動として、今年度も山陽小野田市立図書館で「小工生おすすめの本」を展示し、山陽小野田市広報に本を紹介した。引き続き市立図書館との連携を進めていきたい。		
		・Webページによる積極的な情報発信を推進し、多くの人に本校の情報を提供する。	4:保護者アンケートによる満足度が80%以上であった。 3:保護者アンケートによる満足度が70%以上であった。 2:保護者アンケートによる満足度が60%以上であった。 1:保護者アンケートによる満足度が60%未満であった。	3	ホームページをよく見る・ときどき見るという回答が合計で70%を超えており、予想より多くの保護者・生徒が見ている。 現在HTMLで構成しており、ソースコードの複雑化によってホームページの更新業務負担が大きくなっている。来年度以降WordPress等を利用したホームページ運営に移行し、ホームページ更新業務の簡略化により、コンテンツを充実させて行きたい。		
生徒	自分の健康と命の大切さを認識させるとともに、社会の一員であるという規範意識を醸成させる。また、問題行動の早期発見・未然防止に取り組む。	・交通安全教室や学年別および全体指導で交通安全意識の向上を図り、危険予知に対する態度を高め自他の命を守る意識を育む。また、定期的な立哨指導や生徒会の啓発活動を行いながら交通事故防止に努める。	4：年間を通して事故件数が0件未満であった。 3：年間を通して事故件数が5件以内であった。 2：年間を通して事故件数が10件以内であった。 1：年間を通して事故件数が11件以上であった。	3	事故件数は5件程度。重大事故はなかったが、対車との出会い頭での接触事故が多かった。事故は登校中に集中している。 登校中の並進はほとんど見られないが、下校中の交通マナーについては少し不安なところもある。安全意識、危険予知など事故防止に向けた内面的な啓発を怠ることなく続けたい。 なお、ヘルメットの着用義務については指導中である。		

生徒		・SNSの適切な利用を促しマナーを守った安全な使用に努めさせる。	4：SNSに関わる指導件数が3件未満であった。 3：SNSに関わる指導件数が10件未満であった。 2：SNSに関わる指導件数が15件未満であった。 1：SNSに関わる指導件数が16件以上であった。	3	SNSの利用については指導に力を入れていたが、必ず問題は起こると認識していた。指導件数は3～5件であったが、重大事案になったものも含まれており指導が行き届いていたとは言えない。 また、把握したものは氷山の一角に過ぎず水面下で行われている生徒のSNS利用についてはプライバシーもあり踏み込めないため、頭を痛めているおそらく相当数のトラブルや不適切な利用があると思われる。	・歯科治療は再検査、治療の推奨方法を考える必要がある。メールでながすなども一つの方法である。 ・SNS事案の指導件数だけを評価するのではなく内容や重さを評価の対象にするべきではないか。	A
		・全生徒に対しアンケート調査を実施し、生徒の日常把握に努めると共にいじめの認知件数を増やし早期発見、早期対応に努める。	4：年3回の実施ができ、いじめの認知件数の100%を対策（指導）として役立てた。 3：年3回の実施ができ、いじめの認知件数の80%を対策（指導）として役立てた。 2：年3回の実施をしたが、いじめの認知件数の50%を対策（指導）として役立てた。 1：年3回の実施をしたがいじめ認知件数の50%未満しか対策（指導）として役立てられなかった。	4	年間を通して、いじめの重大事案に該当するものはなかった。日常のトラブルとして、いじりからかい等が数件認められたが、スピーディーな対応によりいじめ等に発展することはなかった。 また、教育相談アンケートやFit（生活アンケート）を通して、不安を抱える生徒の早期発見に努めており目が行き届いた。さらに、スクールカウンセラーとの連携や関係機関との迅速な対応を図り、些細な問題も放置することなく処理できた。		
		・健康診断の事後指導を通して、健康に対する意識と自己管理の向上を図る。特に、歯科の治療率の向上を図る。	4：事後指導を実施し治療率が40%以上であった。 3：事後指導を実施し治療率が30%以上40%未満であった。 2：事後指導を実施し治療率が20%以上30%未満であった。 1：事後指導を実施したが治療率が20%未満であった。	1	歯科については10%程度の完了率で課題を残した。 年々治療率が下がる傾向にあり、保健体育課だけでなくクラスや学年などの力を借りて指導する必要があると感じられる。		
進路指導	学校、家庭、地域間の緊密な連携をベースにしたキャリア教育の活性化と個々の進路希望の実現	・進路希望調査や個人面談等の充実により、学校全体で生徒の進路希望を支援し、その実現を図る。	4：生徒の95%以上が一次募集試験で進路を決定した。 3：生徒の90%以上が一次募集試験で進路を決定した。 2：生徒の85%以上が一次募集試験で進路を決定した。 1：生徒の85%未満しか一次募集試験で進路を決定できなかった。	4	2年次より、就職サポーター及び進路指導部による面談や個人指導を行い、7月の最終進路希望調査をもとに受験先を決定した。8月以降、PTA・就職サポーター・教員による面接練習など受験指導を繰り返し行った結果、一次募集試験の合格率は97．2%（昨年度96%）だった。不合格者は二次募集求人で内定し、就職希望者は公務員の合格を最後に12月中に進路決定をした。 なお、進学希望者は進学係を中心に個別対応を綿密に図った。本年度は国公立大学の推薦入試で5名が合格している。	・就職希望生徒への指導に努力していることが伺える。 ・進路実現が達成できている。保護者の多くが感謝している。 ・求人確保に努力していることがわかる。今後もお願いする。	A
		・生徒の進路希望に資する企業訪問の実施と就職サポーターとの綿密な情報交換を推進することで、学校のニーズに即した求人数の確保と求人内容の充実をめざす。	4：270人分以上の求人を確保することができた。 3：200人分以上の求人を確保することができた。 2：135人分以上の求人を確保することができた。 1：135人分未満の求人しか確保することができなかった。	4	新型コロナの五類以降に伴い、県外企業訪問（5月）を再開した。5～6月には県内企業訪問や就職促進協議会を通して県内企業と面談を行った。校長をはじめ、教頭・各工業科長・3学年担任・進路指導部及び就職サポーターの協力を得て、卒業生の定着指導と求人依頼を行った。 結果的に1月時点で1894名分（前年1168名分）の求人を確保（受付）することができた。1000名を超えた昨年度をさらに上回る恵まれた状況ではあるが、数だけにとらわれず、生徒の希望に沿った動きを地道に続けていきたい。		
		・「進路指導だより」や「進路のしおり」の発行、ホームページの更新など、生徒・保護者への積極的かつ確実な情報提供をめざす。	4：アンケートで「参考になる」「とても参考になる」が90%以上であった。 3：アンケートで「参考になる」「とても参考になる」が80%以上であった。 2：アンケートで「参考になる」「とても参考になる」が70%以上であった。 1：アンケートで「参考になる」「とても参考になる」が70%未満であった。	4	「進路指導だより」を月に1回ペースで発行し、進路希望調査に記入のあった保護者からの質問に回答したり、本年度から実施をはじめた進路ガイダンスの様子を報告したりするなど、さまざまな情報提供を行った。また、求人閲覧サービスを全学年で導入し、より身近なところで求人情報を家庭で確認できるようにした。 以上のような情報提供を行い、本年度は生徒・保護者を合計したうえでの肯定的評価が96．8%となった。来年度はまだ課題の残るホームページの更新に力を入れていきたい。		
工業	資格取得に向けた指導の充実	・各科において資格取得に向けて積極的に働き掛け、ジュニアマイスタポイント年間1600点を目指す。	4：ジュニアマイスターポイント1600点を達成した。 3：ジュニアマイスターポイント1400点以上であった。 2：ジュニアマイスターポイント1200点以上であった。 1：ジュニアマイスターポイント1200点未満であった。	2	今年も、多くの資格・検定試験にチャレンジした。結果待ちの資格試験もあるので、現在集計途中であり、2／16（金）時点で、1384点である。 ※最終的には1809点であった。 （R6.3.21　加筆）	・生徒数減が続くのに1600点をいつまで引っ張るのか。指標として適正かどうか検討してほしい。 ・外部講師の招聘は継続してほしい。	B
	地域と連携したものづくりの推進	企業や大学等から講師を招き、先進的知識・技術にふれ、ものづくりの技術・技能の向上を目指す	4：学校生活についてのアンケート（生徒）で「専門科目・実習の授業において興味・関心をもち取り組んでいる。」が95%以上であった。 3：学校生活についてのアンケート（生徒）で「専門科目・実習の授業において興味・関心をもち取り組んでいる。」が90%以上であった。 2：学校生活についてのアンケート（生徒）で「専門科目・実習の授業において興味・関心をもち取り組んでいる。」が85%以上であった。 1：学校生活についてのアンケート（生徒）で「専門科目・実習の授業において興味・関心をもち取り組んでいる。」が85%未満であった。	4	令和5年度学校生活についてのアンケート集計の結果、肯定的な意見が95.9%であった。今年も地元企業と連携し、外部講師による講習会やマイスター事業などで、専門家による高度な技術指導を受けることができた。さらに、ものづくりコンテスト当日に生徒対象としたものづくりコンテストに関する技術講習会を実施した。今後も引き続き、生徒が興味・関心をもって取り組めるよう、様々な体験活動を地域と連携し取り組んでいきたい。		
業務改善	学校の組織等 校内組織および業務の見直しと改善	各分掌、教科等で協議する機会を設けることにより、業務の見直しを行うとともに、教職員間の情報共有や共通理解を図り連携を強化する。	アンケートの回答で、本校教員の勤務環境に対する満足度が 4　80%以上であった。 3　70%以上であった。 2　60%以上であった。 1　60%未満であった。	3	アンケートの回答で、本校教員の勤務環境に対する満足度が73.1%であった。ICT化の推進に伴う新たな業務への対応による負担が増えた。業務改善に向け、ICT関連業務を中心に分掌再編、業務分担について改善を検討している。各分掌間で協議する機会を設けるとともに、ICT化に対応した持続可能な体制づくりを目指す。	・働き方改革を進めるための指標、方向性について協議してみる必要がある。 ・ICTの効果的な導入により業務改善を図っていることは評価できる。 ・時間外在校時間の多くは部活動であるが、部活動指導以外の業務での時間外を減らす方策を検討することも重要である。	A
	日常的な業務 校務のICT化の推進	情報の一元化等職員間の情報共有、情報発信にネットワークパソコン利用によるICT化を推進する。	4：校務のICT化及び職員間の情報共有、情報発信の新たなシステムの構築と活用を推進することができた。 3：校務のICT化及び職員間の情報共有、情報発信の新たなシステムの構築はできたが活用が不十分だった。 2：校務のICT化及び職員間の情報共有、情報発信の新たなシステムの構築、活用ともに不十分だった。 1：校務のICT化及び職員間の情報共有、情報発信の新たなシステムの構築も活用もできなかった。	3	新たに校務支援システムが導入され、令和5年度入学生の成績処理を行っている。年次進行で新システムへ移行する予定である。令和6年度には、システムが完全移行し、データを一元化することができるため、業務が軽減されると予想される。 各種アンケートにICTを用いることで、業務負担軽減につながった。 一方、情報発信として、ホームページの活用が不十分であった。		
	勤務状況	年休・代休等の休暇が取得しやすい職場環境づくりに努める。	4：年休の平均取得日数が13日を超えた。 3：年休の平均取得日数が10日を超えた。 2：年休の平均取得日数は10日を下回った。 1：年休の平均取得日数も5日を下回った。	3	平均取得日数は、12.3日であった。学校全体としては、4人が5日を下回った。担当する業務により休暇を取得しにくい時期もあるが、ワークライフバランスに気を付け、全教員が年休代休が取得しやすい環境づくりが必要である。		
	働き方改革の推進	教員の時間外在校等時間の平均を45時間以下とする。	4：令和5年度の時間外在校等時間の平均が45時間以下 3：令和5年度の時間外在校等時間が50時間以下 2：令和5年度の時間外在校等時間が55時間以下 1：令和5年度の時間外在校等時間が55時間超	2	令和5年度4～12月学校平均は52.6時間であった。45時間超人数が延127人（内80時間超人数が延70人、100時間以上の人数が延36人）であった。127人の主な理由は、部活動が92人、次いで校務分掌の業務のためが27人であった。業務を分担するなどの対応が必要である。		
地域連携	近隣の小中学生に対する教育活動の周知	親子科学教室、出前授業において、工業の魅力を小中学生や近隣の方に伝える。	4：　4回以上の行事に参加した。 3：　3回の行事に参加した。 2：　2回の行事に参加した。 1：　1回の行事に参加した。	4	須恵小学校、小野田小学校への出前授業を4回実施し、10月に厚陽中学校厚狭中学校でも実施した。大学開放デーでは、山口東京理科大学と連携して科学教室を開催した。親子科学教室は夏休みを利用し実施した。	・行事への参加回数だけでの評価ではなく貢献度で図ってもいいのではないか。 ・小野田工業の生徒は地域連携によく貢献してくれている。	A
	学校と家庭、地域社会や地域の大学との連携強化に努める。	地域の伝統産業を理解し、工場見学やインターンシップにより、地域と連携した学習に取り組む。 また、地域の大学と連携し、高度な知識に触れる取り組みをする。	4：地域と連携した行事に4回以上参加した。 3：地域と連携した行事に3回参加した。 2：地域と連携した行事に2回参加した。 1：地域と連携した行事に1回参加した。	4	地元企業と連携し、インターンシップ（2年）、工場見学（全学年）を実施した。インターンシップ（2年）は3月も実施予定である。また、工場見学では企業への訪問見学を通して、地域産業の理解を深めることができた。毎年恒例のクリーン作戦では、地元企業との地域合同清掃作業を実施した。		

6　学校評価総括（取組の成果と課題）

【教務】基礎学力テストについては、効果的な基礎学力の定着を目指し、テストの実施時期とその前後での指導について検討を行う。授業への取り組みについては、ICTを積極的に取り入れ、校内研修や研究授業を通じた教員間での交流を活発にする。
【生徒】いじめの認知については、アンケートだけでなく日頃の学校生活の見取りからも行い、早期発見、早期解決を目指す。また、健康に対する意識と自己管理の向上を図り、治療率の向上を目指す。
【進路指導】昨年度を上回る求人数を確保し、卒業生全員の進路先を決定することができた。大学や企業と連携したキャリア教育が推進され成果をあげている。地域のニーズを把握し、指導に生かすことが今後も重要である。
【工業】学校全体での資格取得は目標を達成しているが、生徒の取得率に偏りがある。丁寧な指導を継続して行う。
【業務改善】ワークライフバランスに気を付け、全教員が年休代休が取得しやすい環境づくりが必要である。
【地域連携】専門高校の特色を生かした地域連携、学校間連携が図られている。今後も学校の特色を生かした取組を継続する。

7　次年度への改善策

【教務】各教科で基礎学力の定着を目指す。ICTの活用など、授業改善に取り組む。
【生徒】交通マナーや頭髪服装など、生徒の自覚を促し、自ら律することができる態度を育成する。
【進路指導】大学や企業と連携したキャリア教育を継続する。
【工業】資格取得に向けて丁寧な生徒支援を行う。外部講師の招聘を積極的に行う。
【業務改善】ICT化を進め、業務改善を図る。持続可能な働き方に向け、教職員一人ひとりの意識改革に努める。
【地域連携】工業高校の特色を生かした地域連携、学校間連携に取り組み、生徒の自己肯定感を育む。